

名古屋徳洲会総合病院 消化器内視鏡治療センター後期研修プログラム

プログラムの特徴／沿革など

名古屋駅より直通電車で30分弱の高蔵寺駅に隣接する2014年4月に新設移転の病院です。名古屋のベッドタウンである高蔵寺ニュータウンがあり高齢者が急増している地域です。よって癌をはじめとする消化器疾患のニーズが非常に高くなっており、しかしながら消化器科医の不足は深刻な状況が続いているのが現状です。

到達目標やアウトカム

日本消化器内視鏡学会専門医取得における消化器内視鏡を独自で行え、かつ指導下でEVL/EIS/ESD/Stentなど高難易度内視鏡治療者を行えることを目標とします。他にPTCD・IVRの技術取得も可能で消化器病学会・大腸肛門病学会の認定医取得も可能です。また当院の特徴であるEFTRなどの手術と関連した最先端NOTES関連手技が学べるのも特徴です。

年次到達目標／年間研修スケジュール

習熟度に応じるため制限はありません。ESDなど高難易度治療でも能力次第で初期から行っていただけます。また他の徳洲会消化器科にはない大きな特色として大学(名古屋市立大学)との連携があげられます。そのため特殊手術の見学や各種専門医・博士号の取得なども相談可能です(入局の義務は課していません)。

休暇／学会出張などの条件

休暇取得は義務です(年に1週間以上は休んでいただきます)。

学会参加は義務です(年に1回は全国学会で発表していただきます。学会出張は演題があれば制限ありません)。

週間スケジュール

月～金 朝8時45分よりERカンファレンス
毎週金曜日 16時よりカンファレンス
月曜から土曜まで毎日内視鏡がとれるだけ多く内視鏡を担当していただけます。
週に1～2回外来を担当していただけます。
週に0.5～1日内科救急を担当していただけます。
水曜日に英文抄読会があります。
当直は3～4回/月あります。
年に10回ほど大学関連の勉強会があります。

募集人員

2～3人

研修期間

2年もしくは消化器内視鏡専門医取得まで

学会施設認定・取得可能な資格など

日本内科学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器病学会専門医
日本大腸肛門病学会専門医
日本消化管学会専門医(予定)

診療実績・データ

上部消化管内視鏡 2,226件
下部消化管内視鏡 788件
ERCP 77件

現在の指導体制

高山 悟 消化器内視鏡治療センター長
名古屋市立大学医学部卒業(平成5年)

【経歴】

名古屋市立大学医学部卒業(平成5年)、名南病院、茅ヶ崎徳洲会病院、千葉西総合病院、庄内余目病院 光学診療部長、宇治徳洲会病院 救急診療部部長、名古屋市立大学消化器外科 講師

【認定資格】

医学博士
日本消化器内視鏡学会 専門医 指導医 東海地区評議員
日本消化管学会 専門医 代議員
日本肝臓病学会 専門医
日本消化器病学会 専門医 東海地区評議員
日本大腸肛門病学会 専門医 他

【所属学会】

日本カプセル内視鏡学会
日本肥満治療学会 他

研修修了者実績

—

指導医からのメッセージ

当院では、消化器内科を外科が担っており内科から外科への受け渡しがありません。この規模以上の病院では日本で唯一といえるかもしれません。患者さんにとっては受診時に一気に方針が決まることも多く非常に受診者サイドのメリットは大きいと考えます。また外科医マインドが背景にあるため自然に攻める内視鏡医が養成されていきます。多少の危険があっても可能な限り内視鏡で取れるものは取る、ステントなど内視鏡で治療できるものは手術に回さない。といったことを基本としております。また指導医は治療内視鏡を専門としており通常の消化器内科では経験のないような特殊内視鏡治療を多数経験しております。また大学でレーザー治療をしたり、ESDを導入したりと常に先端の消化器内視鏡治療に携わってきており、内視鏡の指導もしてまいりました。さらに肝臓治療にも携わってきたため肝炎のウイルス治療やTACEなども習得可能です。もちろん研修は純粋に消化器内科業務ですので外科業務を担って頂く必要はありません。冒頭にあるよう新築移転もあり内視鏡数の急増は明白です。また緩和治療センターも開設され消化器内科医としてほばできないことはない環境が当院にはあります。消化器治療に興味のある先生方を広く募集いたします。

後期研修医からのメッセージ

—

修了者の進路

—

その他

採用方法：面接
推薦状有無：必要なし
採用時期：随時
指導医：1名

指導責任者



高山 悟(たかやま・さとる)
消化器外科部長・
消化器内視鏡治療センター長